倭人伝の地名考

『長田夏樹論述集（上)』第 24 章
（原載 :『歴史公論』第 86 号，1983 年 1 月）

この論文は『魏志』倭人伝中に見られる倭国の地名を取り上げ、それらの①読み方、②語源、③地理的位置について論じたものである。

前半部分では、『魏志』倭人伝の漢字音に対する考え方が示される。まず、『魏志』倭人伝中の地名がどの時代のどの地域の漢字音で表記されているかという問題について、『魏志』の著者である陳寿の言語的背景、『魏志』の編纂過程から、3 世紀の終わり頃の洛陽音（洛陽古音）と考える。そして、洛陽古音の特徴として、「末盧」、「伊都」、「奴」、「卑弥呼」の「盧」、「都」、「奴」、「呼」の母音が /a/ であることを述べる。

後半部分では、『魏志』倭人伝中の 30 の地名に洛陽古音を付した表を掲げ、うち 1～20 番の地名について、『古事記』、『万葉集』、『延喜式』をはじめとする諸資料を参照しながら、それぞれの地名の読み方と意味を考証する。またそれらの地名が後世のどの地名に該当するのかについても論及があり、多くは九州または四国の地名と関連付けられている。

なお、この論文は元々『歴史公論』86 の特集「地名と日本史」に寄稿されたもので、一般向けに分かりやすく書かれている。内容的には「邪馬台国の言語」（下巻第 20 章）と重複するところが多いが、地名の考証に関しては、本論文のほうが内容を増して詳細になっている。

（橋本貴子）